

稲沢市・一宮市・小牧市3市合同DX意識調査報告(2024年度)

令和7年4月



## 稲沢市・一宮市・小牧市の3市合同DX意識調査について

3市合同意識調査は、稲沢市・一宮市・小牧市が、今後も、それぞれの職員に対しDXに関する研修を実施するに当たり、自治体職員のDXに関する意識やスキルを定量的に把握することで、それぞれの自治体におけるDXの推進の方向性や、デジタル人材の育成などの施策立案、効果検証に役立てることを目的として、DXに関する意識調査を合同で実施するよう稲沢市が一宮市及び小牧市に呼びかけを行い、実現に向けた調整を行いました。

その後、稲沢市は令和6年度の「地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業」として本事業を申請し、（一財）リンクデータ代表理事の下山紗代子氏の支援を受け、今回の合同調査を実施したものです。

### 実施主体課

稲沢市総合政策部デジタル推進課

一宮市総務部情報システム課

小牧市市長公室行政改革課

### 調査対象

稲沢市・一宮市・小牧市に所属する正規雇用職員 3,954人

※特別職、保育士、現業職及び医療職を除く

### 回答期間

稲沢市：令和6年12月3日～12月17日

一宮市：令和6年12月4日～12月20日

小牧市：令和6年12月2日～12月16日

### 調査項目

全69問

※経済産業省 IPAのDXリテラシー標準に基づく

### 回答方法

Webフォーム（LoGoフォームで回答を収集）

### 回答者数

2,296人

|       | 母 集 団 | 回 答 数 | 回 答 率  |
|-------|-------|-------|--------|
| 稲 沢 市 | 778   | 468   | 60.15% |
| 一 宮 市 | 2,209 | 1,160 | 52.51% |
| 小 牧 市 | 967   | 668   | 69.08% |
| 合 計   | 3,954 | 2,296 | 58.07% |

## 複数の自治体と共同で調査を実施するメリット

3市合同で同じ属性を持つ職員を対象に、同じタイミングで調査をすることにより、以下の実態把握と分析ができるようになります。

- ・同一組織内の職員の属性による差の把握
- ・自治体間で比較した場合の組織ごとの特徴の把握
- ・（次年度以降の調査の継続を前提に）経時的な変化の確認

## 設問設計の方法

経済産業省所管の独立行政法人・IPAが公開する「DXリテラシー標準（デジタルスキル標準 V1.0）」（2022 年 12 月版）をベースに、3市独自の設問を追加する形で設計しました。

※ 主設計者：下山紗代子氏

### DXリテラシー標準とは

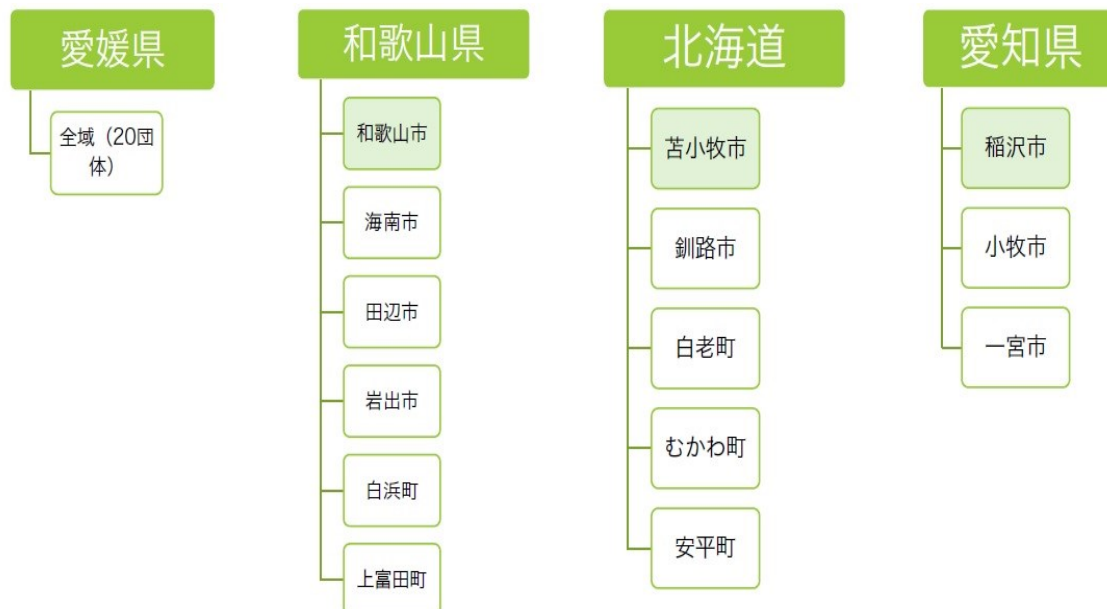
全てのビジネスパーソンが身につけるべき能力・スキルを標準として、一人ひとりがDXに関するリテラシーを身につけることで、DXを自分事としてとらえ、変革に向けて行動できるようになることをねらいとする。（出展：IPA DXリテラシー標準（DSSL概要））



調査概要と速報値について報告する下山氏（2025 年 1 月）

### 3市合同調査と同様の調査を実施した他自治体

令和5年度に愛媛県及び全域の自治体が参加した調査を皮切りに、各所で同様の調査が広まり始めています。



### DX意識調査 各設問の概要

DXリテラシー標準に基づく設問（54問）は4つの分野で構成し、それぞれ次のような定義で質問を設定しています。

※回答は全て以下4つの選択肢からの単一選択式としました。

1. 当てはまらない
2. あまり当てはまらない
3. 少し当てはまる
4. 当てはまる

#### 【マインド・スタンス】15問

社会変化の中で新たな価値を生み出すマインド・スタンスを知り、自身の行動を振り返ることができる

質問例：業務のやり方を従来とは違う方法に変えようとしている

#### 【Why（DXの背景）】6問

人々が重視する価値や社会・経済の変化を知っており、DXの重要性を理解している

質問例：「DX」とは何か自分の言葉で説明できる

## 【What（DXで活用されるデータ・技術）】20問

データやデジタル技術に関する最新の情報を知り、発展の背景への知識を深めている

質問例：データ分析結果に基づく判断・意思決定ができる

## 【How（データ・技術の利活用）】13問

データ・デジタル技術の活用事例を理解し、実現のために必要な基本ツールを実際の業務で利用できる

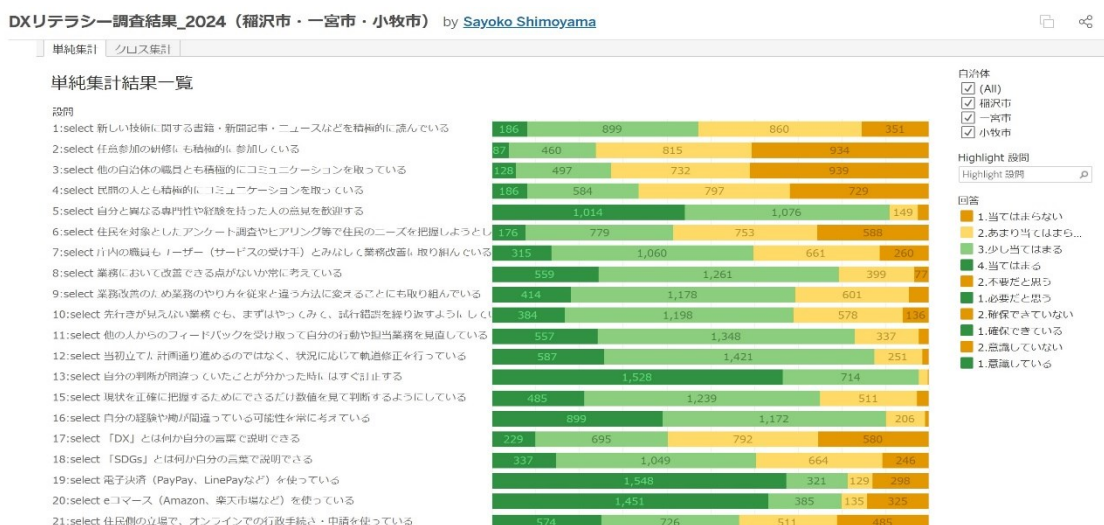
質問例：セキュリティポリシーの内容を理解している

このほか、DXリテラシー標準とは別に、3市共通の設問（7問）も設定しました。

- ・2040年問題（人口を基に試算した職員数の減少率を踏まえると現在よりも更に少ない職員数での行政運営が必要となる可能性がある）を意識していますか？
- ・今の自分にはリスクリング（新しい知識やスキルを学ぶこと）が必要だと感じていますか？
- ・今の自分に必要な知識やスキルを学ぶための時間を確保できていますか？
- ・今後どのような知識やスキルを習得したいですか？
- ・DXを推進するためにどのような研修が必要だと考えますか？
- ・IPAが実施する情報処理技術者の資格を持っていれば選択してください
- ・DXの推進に関するご意見・ご質問などがあれば自由にご入力ください

## 調査結果

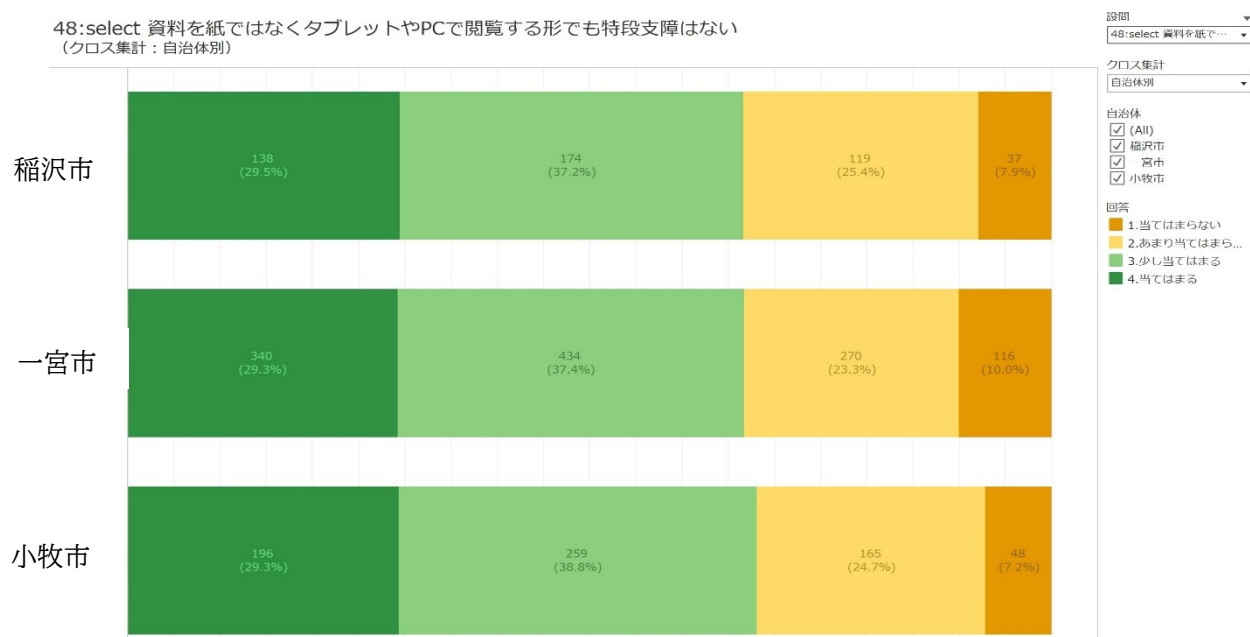
3市合同DX意識調査の結果データは、ビジュアル分析ツール「Tableau」へと接続し、各市のDX推進担当部署と共有しています。



調査結果を Tableau で表示（一部）

なお、この調査は他自治体との相対的な特徴の把握や、仮説・事業効果の検証などに活用するものであり、自治体・属性ごとの調査結果の優劣を示すものではありませんので、ご承知おきください。

今回の調査結果で見えてきた分析を抜粋して紹介します。



設問「48. 資料を紙ではなくタブレットやPCで閲覧する形でも特段支障はない」(団体別)

行政のデジタル化やDXを進めるため、3市ともに庁内・庁外問わずオンライン申請の実施や、電子決裁を進めております。

特に庁内業務のデジタル化を推進するためには、上記設問「資料を紙ではなくタブレットやPCで閲覧する形でも特段支障ない」と考える仕組みづくりやマインド醸成が必要になってきます。

上記回答結果のとおり、3市ともに66%～68%の職員は「4. 当てはまる」、「3. 少し当てはまる」を選択しています。(緑色2色)

なお、各自治体における年代別の回答は以下のとおりです。

48:select 資料を紙ではなくタブレットやPCで閲覧する形でも特段支障はない  
(クロス集計：年代別)

# 稲沢市

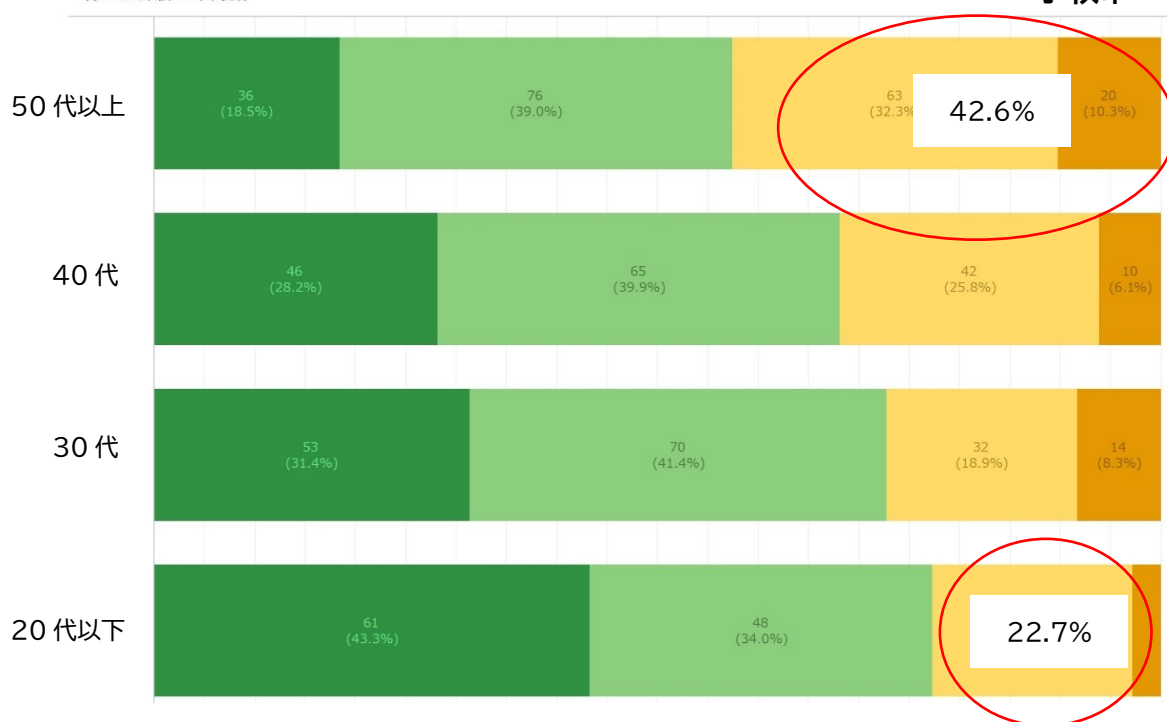


48:select 資料を紙ではなくタブレットやPCで閲覧する形でも特段支障はない  
(クロス集計：年代別)

# 一宮市



小牧市



設問「58. 今後どのような知識やスキルを習得したいですか?」については、回答に記載された単語の出現頻度などを可視化しました。



## 単語の出現頻度の可視化

DXに関する調査であったため、OfficeソフトやAIなどのデジタルツールなどを業務に活用したい意見や、「プログラミング」といったスキルを取得したいという意見も多いように見受けられます。

特徴的な単語の出現頻度（抜粋）

AI：40件 エクセル：26件 プログラミング：23件 マクロ：15件

## 参考 DX意識調査\_設問一覧

| 構成                       | 学習のゴール                                                                  | 項目              | No | 設問                                                                       |
|--------------------------|-------------------------------------------------------------------------|-----------------|----|--------------------------------------------------------------------------|
| マインド・スタンス                | 社会変化の中で新たな価値を生み出すために必要なマインド・スタンスを知り、自身の行動を振り返ることができる                    | 変化への適応          | 1  | 新しい技術に関する書籍・新聞記事・ニュースなどを積極的に読んでいる                                        |
|                          |                                                                         |                 | 2  | 任意参加の研修にも積極的に参加している                                                      |
|                          |                                                                         | コラボレーション        | 3  | 他の自治体の職員とも積極的にコミュニケーションを取っている                                            |
|                          |                                                                         |                 | 4  | 民間の人とも積極的にコミュニケーションを取っている                                                |
|                          |                                                                         | 顧客・ユーザーへの共感     | 5  | 自分と異なる専門性や経験を持った人の意見を歓迎する                                                |
|                          |                                                                         |                 | 6  | 住民を対象としたアンケート調査やヒアリング等で住民のニーズを把握しようとしている                                 |
|                          |                                                                         | 常識にとらわれない発想     | 7  | 庁内の職員もユーザー（サービスの受け手）とみなして業務改善に取り組んでいる                                    |
|                          |                                                                         |                 | 8  | 業務において改善できる点がないか常に考えている                                                  |
|                          |                                                                         | 反復的なアプローチ       | 9  | 業務のやり方を従来と違う方法に変えようとしている                                                 |
|                          |                                                                         |                 | 10 | 先行きが見えない業務でも、まずはやってみて、試行錯誤を繰り返すようにしている                                   |
|                          |                                                                         | 柔軟な意思決定         | 11 | 他の人からのフィードバックを受け取って自分の行動や担当業務を見直している                                     |
|                          |                                                                         |                 | 12 | 当初立てた計画通り進めるのではなく、状況に応じて軌道修正を行っている                                       |
|                          |                                                                         | 事実に基づく判断        | 13 | 自分の判断が間違っていたことが分かった時にはすぐ訂正する                                             |
|                          |                                                                         |                 | 14 | 現状を正確に把握するためにできるだけ数値を見て判断するようにしている                                       |
|                          |                                                                         |                 | 15 | 自分の経験や勘が間違っている可能性を常に考えている                                                |
| Why<br>(DXの背景)           | 人々が重視する価値や社会・経済の環境がどのように変化しているのか知っており、DXの重要性を理解している                     | 社会の変化           | 16 | 「DX」とは何か自分の言葉で説明できる                                                      |
|                          |                                                                         |                 | 17 | 「SDGs」とは何か自分の言葉で説明できる                                                    |
|                          |                                                                         | 顧客価値の変化         | 18 | 電子決済（PayPay, LinePayなど）を使っている                                            |
|                          |                                                                         |                 | 19 | eコマース（Amazon、楽天市場など）を使っている                                               |
|                          |                                                                         | 競争環境の変化         | 20 | 住民側の立場で、オンラインでの行政手続き・申請を使っている                                            |
|                          |                                                                         |                 | 21 | テレワークを実施している                                                             |
| What<br>(DXで活用されるデータ・技術) | DX推進の手段としてのデータやデジタル技術に関する最新の情報を知ったうえで、その発展の背景への知識を深めることができる             | 社会におけるデータ       | 22 | 「ビッグデータ」とは何か自分の言葉で説明できる                                                  |
|                          |                                                                         |                 | 23 | 「オープンデータ」とは何か自分の言葉で説明できる                                                 |
|                          |                                                                         | データを読む・説明する     | 24 | 「情報」と「データ」の違いを自分の言葉で説明できる                                                |
|                          |                                                                         |                 | 25 | 「相関関係」と「因果関係」の違いを自分の言葉で説明できる                                             |
|                          |                                                                         | データを扱う          | 26 | Excelを使ってグラフの作成ができる                                                      |
|                          |                                                                         |                 | 27 | Excel関数を使った集計・分析ができる                                                     |
|                          |                                                                         |                 | 28 | Excelのピボットテーブルを使った集計・分析ができる                                              |
|                          |                                                                         |                 | 29 | csv（カンマ区切りテキスト） ファイルを扱うことができる                                            |
|                          |                                                                         | データによって判断する     | 30 | データを分析するための仮説の構築ができる                                                     |
|                          |                                                                         |                 | 31 | データ分析結果に基づき判断・意思決定ができる                                                   |
|                          |                                                                         |                 | 32 | データを用いた客観的な指標による評価ができる                                                   |
|                          |                                                                         |                 | 33 | 対話型AIチャットサービス（ChatGPT, Copilot, Gemini等）を使っている                           |
|                          |                                                                         | AI              | 34 | AI画像生成サービス（Adobe Firefly, Canva等）を使っている                                  |
|                          |                                                                         |                 | 35 | AI-OCRサービス（申請書等の画像データをテキストデータに変換するサービス）を使っている                            |
| How<br>(データ・技術の活用)       | データ・デジタル技術の活用事例を理解し、その実現のための基本的なツールの利用方法を身につけたうえで、留意点などを踏まえて実際に業務で利用できる | クラウド            | 36 | 「オンプレミス」と「クラウド」の違いを自分の言葉で説明できる                                           |
|                          |                                                                         |                 | 37 | クラウドを使うメリットとデメリットを正しく理解している                                              |
|                          |                                                                         | ハードウェア・ソフトウェア   | 38 | 「OS（オペレーティングシステム）」とは何か自分の言葉で説明できる                                        |
|                          |                                                                         |                 | 39 | 「OSS（オープンソース・ソフトウェア）」を使うメリットとデメリットを正しく理解している                             |
|                          |                                                                         | ネットワーク          | 40 | 「LGWAN」とは何か自分の言葉で説明できる                                                   |
|                          |                                                                         |                 | 41 | 「VPN」とは何か自分の言葉で説明できる                                                     |
|                          |                                                                         | データ・デジタル技術の活用事例 | 42 | デジタル技術の活用が住民にとって役に立った事例を知っている                                            |
|                          |                                                                         |                 | 43 | デジタル技術の活用が庁内の職員にとって役に立った事例を知っている                                         |
|                          |                                                                         | ツール利用           | 44 | タッチタイピングによる文章入力を困難なくできる                                                  |
|                          |                                                                         |                 | 45 | Word（もしくは類似の文書作成ツール）を使った文書作成を困難なくできる                                     |
|                          |                                                                         |                 | 46 | Power Point（もしくは類似のスライド資料作成ツール）を使ったプレゼン資料作成を困難なくできる                      |
|                          |                                                                         |                 | 47 | オンライン会議ツールを使ってオンライン会議に参加できる                                              |
| 独自質問                     |                                                                         | セキュリティ          | 48 | 資料を紙ではなくタブレットやPCで閲覧する形でも特段支障はない                                          |
|                          |                                                                         |                 | 49 | セキュリティポリシーの内容を理解している                                                     |
|                          |                                                                         | モラル             | 50 | 個人アカウントを保有している端末やサービスにおいて、IDとパスワードは他人から見えない場所で安全に管理している                  |
|                          |                                                                         |                 | 51 | インターネットで検索をした時に、不正確な情報や悪意のある情報を見分ける方法を知っている                              |
|                          |                                                                         | コンプライアンス        | 52 | 想定と違う結果が出たとしても、データは隠さず報告する                                               |
|                          |                                                                         |                 | 53 | 個人情報に該当する情報とそうでない情報を見分けられる                                               |
|                          |                                                                         |                 | 54 | 他人の画像や文章を転載する際、著作権上認められる「引用」の条件・ルールを理解した使用を行っている                         |
|                          |                                                                         |                 | 55 | 2040年問題(人口を基に試算した職員数の減少率を踏まえると現在よりも更に少ない職員数での行政運営が必要となる可能性がある)を意識していますか？ |
| 回答者属性                    |                                                                         |                 | 56 | 今の自分にはリスクリング（新しい知識やスキルを学ぶこと）が必要だと感じていますか？                                |
|                          |                                                                         |                 | 57 | 今の自分に必要な知識やスキルを学ぶための時間を確保できていますか？                                        |
|                          |                                                                         |                 | 58 | 今後どのような知識やスキルを習得したいですか？                                                  |
|                          |                                                                         |                 | 59 | DXを推進するためにどのような研修が必要だと考えますか？                                             |
|                          |                                                                         |                 | 60 | IPAが実施する情報処理技術者の資格を持っていれば選択してください                                        |
|                          |                                                                         |                 | 61 | DXの推進に関するご意見・ご質問などがあれば自由にご入力ください                                         |
|                          |                                                                         |                 | 62 | ご所属の自治体名                                                                 |
|                          |                                                                         |                 | 63 | ご所属の部門                                                                   |
|                          |                                                                         |                 | 64 | ご所属の部・課名                                                                 |
|                          |                                                                         |                 | 65 | 職種                                                                       |
|                          |                                                                         |                 | 66 | 職位                                                                       |
|                          |                                                                         |                 | 67 | 採用形態                                                                     |
|                          |                                                                         |                 | 68 | 年代                                                                       |
|                          |                                                                         |                 | 69 | 性別                                                                       |